

## 日本語版公正世界信念尺度の作成と多次元性の検討

○村山 綾 (関西学院大学大学院文学研究科・応用心理科学研究センター)・三浦 麻子 (関西学院大学文学部)

キーワード: 公正世界信念, 尺度, 検証的因子分析

### 問題

本研究の目的は、これまで1次元が仮定されていた公正世界信念を多次元的に(一般的、究極的、内在的、不公正の4側面)捉えようとする Maes(1998)の尺度を日本語化し、他の個人変数との関連を含めその妥当性を検討することである。

公正世界信念とは、世界が不当な不運に見舞われることのない、公正で安全な場所であるという信念である(Lerner, 1980)。これまでの研究から、人は、公正世界信念が脅威にさらされた場合に、罪のない被害者の人格を傷つけたり非難したりすることで信念の維持を図る傾向が明らかになっている(e.g., Warner, VanDeursen, & Pope, 2012)。また、一般市民の法的判断に関連する個人変数として公正世界信念が重要な役割を担っている可能性も指摘されている(Bennett, 2008)。

Maes(1998)は公正世界信念を多次元的に捉えることを提案し、その個人差を測定する尺度を作成した。そして中でも因果応報的な考えと関連する「内在的公正世界信念」と、不公正に直面したとしても正義は現世、来世でも決して揺るがないと考える「究極的公正世界信念」が、被害者非難の程度と異なる関連を示す可能性を指摘した。裁判員制度の施行以降、日本でも一般市民が刑事事件に対する法的判断を求められるようになり、その判断に関連する個人要因の検討は急務と考えられる。このような現状を踏まえ、本研究では、公正世界信念の個人差を多次元的に測定する Maes(1998)の尺度を日本語化し、その妥当性を検討する。

### 方法

**参加者** オンラインリサーチ会社にモニタ登録している20代~50代の男女530名(平均年齢40.00, SD=11.18)がアンケートに回答した。

**測定項目** (1) 公正世界信念尺度 (Maes, 1998) を日本語化したもの31項目(6件法)。構成概念妥当性を検討するための変数: (2) Locus of Control 尺度 (鎌原・樋口・清水, 1982) より外的統制、内的統制それぞれ4項目(4件法)、(3) 時間的展望尺度日本語版 (下島・佐藤・越智, 2012) の未来志向因子8項目(5件法)、(4) 日本版主観的幸福感尺度 (島井・大竹・宇津木・池見・Lyubomirsky, 2004) 4項目(7件法)。

### 結果と考察

公正世界信念尺度について探索的因子分析を行った後、検証的因子分析を行った。理論的背景や修正指標に基づいて、最終的に Figure 1 のモデルを採用した ( $\chi^2(117) = 237.86, p < .001, GFI = .95, AGFI = .93, CFI = .98, RMSEA = .05$ )。各因子の平均値および標準偏差とその他の個人変数との相関関係を Table 1 に示す。

分析の結果、Maes(1998)の想定と同様の4因子が抽出された。一方で、Maes(1998)では本研究で示したような階層性については考慮されていなかった。究極的公正世界信念と内在的公正世界信念は、一般的公正世界信念からのパスの係数が高く、また両者の相関は  $r = .63(p < .01)$  と強いものの、不公正信念との関連が異なっている点から、別々の概念として扱う方が妥当と考えられる。この2層構造は、本研究により新たに示された点である。今後は本尺度の再検査信頼性を検証した後に、刑事事件の被害者非難および加害者に対する反応との関連について検討する。

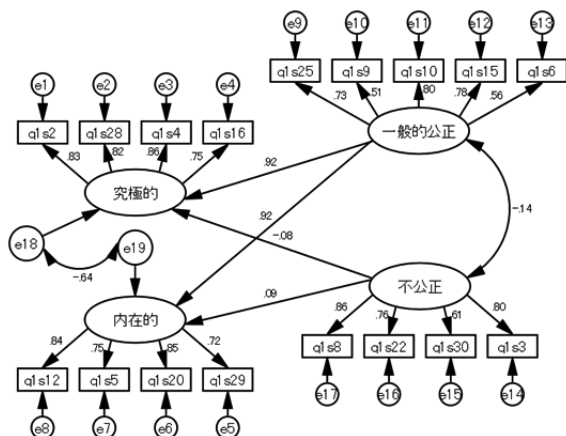


Figure 1. 日本語版公正世界信念尺度の2次因子分析結果

	M	SD	未来志向	内的統制	外的統制	幸福感
究極的公正	3.26	1.15	.212	.425**	-.113**	.257**
内在的公正	4.00	1.16	.328**	.311**	-.174**	.289**
不公正	4.26	1.11	-.047	-.201**	.259**	-.247**
一般的公正	3.55	0.95	.278**	.391**	-.115**	.272**

\*\*p < .01; \*p < .05

引用文献: Bennett(2008). *The Jury Expert*, 20, 35-44. / 鎌原ら(1982). 教心研, 30, 302-307. / Lerner(1980). *The belief in a just world. A fundamental delusion.* / Maes(1998). In Montada, & Lerner, (eds.), *Responses to victimizations and belief in a just world*, pp. 9-40. / 島井ら(2004). 日本公衆衛生雑誌, 51, 845-853. / 下島ら(2012) *パーソナリティ研究*, 21, 74-83. / Warner et al., (2012). *EJSP*, 42, 276-284.